平成31(2019)年度　江戸川区立平井西小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	・やさしい子 ・じょうぶな体 ・よく考える子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・「明日も楽しみ、学校大好き」と言える「笑顔の学校」 ・「進んであいさつする子　命を大切にする子　思いやりのある子」「外で元気に遊ぶ子　よく食べよく眠る子」「自ら学び、考え、表現する子」 ・創造的で協働する教職員集団「チーム平井西」
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ 若手教員育成のために「校内OJT研修会」を設け、全教員が講師を務めることで、研鑽を積むことができた。また、学習・生活面などで平井西スタンダードを確立し、具体的に実践してきた。 ＜課題＞ 特別支援教育をどのように推進するか。個人での対応ではなく、組織として対応できるように、特別支援教育専門員やSC・SSWとも連携し、エンカレッジルームの活用や個別の支援計画などの確立が必要。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・年3回の小中連携の実施。 ・教員研修の実施。	・小6が中学校訪問をしての児童生徒交流を年1回以上実施。	B	B	○外国語活動の研究発表も見ていただき、教員交流が実施できた。 ●来年度に向けた計画の見直しも必要。	B	・小中が交流を進めていることは伝わるが、具体的な交流のことまではわからない。	・HP等を活用し、地域・関係者にも積極的な情報発信を進める。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	・校内研修3回の実施。 ・情報リーダーを中心とした研修の実施。	・教員の研修参加率100%。 ・算数のデジタル教科書活用率100%。	A	A	○OJT研修を活用して、最新のICT機器の活用などを広げることができた。 ○ICT機器を活用した授業が浸透してきた。	B	・以前に比べて、パソコンなどの電子機器を使用している様子が伝わるが、詳細は分からない。	・ICT機器を使用した授業を、保護者・地域にも積極的に発信する。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	・あおぎり学級と連携した研修会の実施。 ・校内委員会計画の充実。 ・特別支援教育専門員との連携の充実。	・不登校、いじめ問題を0% ・QUテスト、居心地のよい学級とする児童90%以上。	A	B	○昨年度より計画的に対応ができている。 ●不登校傾向の児童に対する手立てを考えるうえで、SSW等との情報交換がもっと必要。	A	・先生方が連携して取り組んでいる様子が伝わってきた。	・現状の取組を続けると同時に、不登校の未然防止にも努める。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	・補習年35回以上の実施。 ・計算タイムを活用したベーシックドリルの実施。	・診断シートの平均正答率80%。 ・学年の漢字・計算の正答率90%以上の児童を90%以上。	B	B	○補習や計算タイムは計画的に実施できた。 ●D層に入る児童の基礎向上のための手立てをもっと考える必要がある。	A	・授業が充実しており、子供たちの表情も明るいと感じる。	・個別支援も大切にしつつ、現状の学習環境を続けていく。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実	・年2回の読書月間。 ・読書科充実のための研修会の実施。 ・蔵書の整理と本棚の配置改善	・学校図書館を活用した調べ学習を進んでできる児童80%以上。 ・1年間の読書量5・6年生で30冊以上。	A	B	○学校司書と連携して、改善を進めている。 ●充実した調べ学習を行うためには、事前準備が重要である。学校司書の必要性を痛感している。	B	・図書室の様子や活動を知る機会がなかなかないので、活用まではわからない。本が好きな子は多い。	・学校図書館の活用についての情報発信を積極的に行う。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・運動遊び、持久走タイムなどの充実。 ・なわとび月間の実施。長縄集会の実施。	・運動遊び年35回以上実施。 ・長縄集会に向けてクラス目標の設定。 ・運動が好きな児童90%以上。	A	A	○運動遊びなど、計画的に実施している。 ○保護者アンケートでもマイナスな意見は見られず、取組が浸透してきている。	A	・朝遊びを見ても、たくさん体を動かす子が多くいる。 ・アンケートも好意的な意見ばかりだった。	・現状の取組を継続していく。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	・学年ごとのオリ・パラ授業の実施。 ・オリ・パラ掲示板の充実。	・オリ・パラ選手を招いての授業を、各学年1回以上実施。 ・たてわり班活動を年6回以上実施。	A	A	○オリパラ選手を迎えての授業計画を立て、実施している。 ○外国語活動と絡めた掲示板の更新を進めた。	A	・オリパラ関連の授業のことを、楽しそうに話していた。選手との交流が良い。	・現状の取組を続けていく。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	・日常からの「クラスルームイングリッシュ」の積極的な活用 ・授業で使える歌などの校内研修の実施	・楽しく英語活動ができる児童を90%以上。	A	A	○担任主導の外国語授業が定着してきた。 ○多くの児童が意欲的に取り組めている。 ●ALTとの連携はさらに深める必要がある。	A	・校内の環境を見ても、外国語に対して積極的に取り組んでいる様子が伝わってくる。	・今年度の研究の成果と課題を、次年度に生かしていく。